



# 税金の作文コンクール



## 税金の使い道

江原北小学校 5年 横井 陸人

ぼくは、百円均一のお店が好きだ。便利なもの、かっこいいものが百円で買えるからだ。いままでは百五円で一個買えていたけど、最近は一一個買うのに百八円必要になった。商品は百円なのに、なぜ余分に八円もはらわないといけないのだろう。なんだか損している気分になった。お店の人もお母さんも当然の様に百円なら百八円をはらっている。消費税というものらしいが、消費税って一体なんなんだろう。

ぼくは、お母さんに聞いてみた。お母さんは消費税でみんなから税金を集めて、私たちの暮らしに役立てているんよと言った。どうやらぼくの周りにあるもの、使っているもの沢山のものに税金が使われているようだ。

困った時に助けてくれる警察、消防、救急当たり前にあるものだと思っていた学校、道路、公園。お仕事を終えた人達の年金。それから毎週のごみの収集。ぼくの身の回りには数えきれないほど、税金を使ったものがあっておどろいた。ぼくの暮らしに必要なものばかりだ。

もし、税金がない世の中だったら、百円のは百円で買える様になる。でも税金が使われていたはずのものは、どうなるだろう。学校もなければ公園で遊ぶことも出来なくなる。火事になっても、急な病気、ケガをしても自分達でどうにかしなければいけない。ごみの収集も来てくれないから、町じゅうごみだらけ。考えただけで、ぞっとした。

税金によって、いかにぼくの生活が豊かになっているか。税金によって、安全・安心は守られ、快適なくらし、豊かなくらしへとつながっていたのだ。

実際に買い物する時、消費税が高いとか、もったいなく思ってしまうけど、消費税がなかったら大変な事になると思い出そう。そしてみんなの大切な税金で作られた学校、公園すべてのものを今よりも、もっと大切に使用したいと思った。

## ぼくたちの生活と税金

重清東小学校 6年 横山 蒼真

去年の四月に消費税が八パーセントに上がりました。お母さんが、「買い物をする時、昔は値段だけ見て買い物ができたけど、今は値段の下に小さく消費税がふくまれた金額を書いているので実際の支払い金額が分かりづらい時がある。」

と言っているのを聞いたことがあります。ぼくも、おこづかいで本を買ったり、おかしを買ったりします。百円で八円の消費税だけど、金額が高くなると、消費税がかからなかったらいいのにとすることもあります。そこで、税金について考えてみることにしました。

税金とは、みんなの安全、安心なくらしを支えるための会費のようなものだそうです。ぼくが知っている消費税のほかにも、住民税や所得税などがあります。税金の使い道としては、年金や医りょう、介護など社会保障の安定化と充実に使われたり、ゴミの処理、警察、消防などの公共サービスや、公園や道路などの公共施設の整備に使われています。では、税金を払わなかったらどうなるのか考えてみました。ゴミはお金を払って、処理してもらはないといけなくなるし、かぜをひいて病院へ行っても、今よりも高く治りょう費を払わないといけなくなります。今は、学年が上がるたびに、新しい教科書が配られ、きれいな机やイス、黒板もあって毎日楽しく学校に行けているのに、それも全てお金を払わないといけなくなってしまいます。

このように考えてみると、ぼくたちの生活は、正しく税金が使われていることによって、安定した生活が送れているのだということが分かりました。平成二十七年四月には、消費税が十パーセントに上がる予定です。ぼくに今できることは、物を買って消費税を払うことです。そして大人になったら、今よりもさらに住みよい生活ができるように、きちんと税金を納めたいと思います。